



町長回誌 No.144

町長日誌の第144号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆様のご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

10月13日(火)AM10:30

昨日12日は体育の日で祝日でしたが、どうも「体育の日」は「10月10日」という印象が強く、他の祝祭日も含めてその年によって祝日が変わる事に戸惑いを覚えるのは私だけでしょうか？ 年配の人なら誰もがご存じの事と思いますが、昭和39(1964)年10月10日は「東京オリンピック」の開会式でした。体育の日はこの事を記念して制定されたのです。小学校1年生の私は校長室で白黒の映像でしたが、まさに日本晴れの下、代々木国立競技場に入場してくる外国人選手団の姿に、顔から目が飛び出さんばかりに見入っていたのを思い出します。放送はNHKでしたから、後の札幌冬季オリンピックの時の笠谷選手の金メダルジャンプの時に「飛んだ！ やった！ 笠谷！ 金メダル!!」の名セリフで有名な北出清五郎アナウンサーの清々しい声が強く印象に残っています。一番後に日本選手団が登場した時には、白黒テレビなのに北出アナウンサーの赤いジャケットと真っ白なズボンと言う説明で、私の頭の中には総天然色で選手団や競技場の様子が見えた気がしたものでした。

それほど、50年前の東京オリンピックは日本に夢と感動を与えたのです。しかし、農業が廃れ食糧自給率は4割にも満たなくても人々の生活は驚くほど豊かになり、経済力もはるかに強くなったのにも拘らず、スタジアムの建設につまずき、ロゴもスムーズに決められない中で、果たして2020年のその日に小学校1年生の子供たちは私と同じような夢や感動で胸を膨らますことができるのでしょうか？ 私の思い過ごしであることを願っています。

10月8~9日(木・金)

一週間前の2日の爆弾低気圧による風の被害は、住宅や建物などでは小さな被害はあったものの、総じては無いと言っても過言ではない状況でしたが、収穫を目前にしていた家畜用コーンが、まるで大きなローラーに押し潰されたかのように西から東に向けてベッタリと倒れる被害が約200ha以上に及びました。幸い雨が少なく、その後7日までは好天が続きましたので、片刈りと言う大変な作業でしたが大半を収穫することが出来ました。8日、本道を襲った台風23号は、当初根室に近づきその後遠ざかる予報でしたが、発達したままでスピードが遅く、オホーツク沿岸の町に大きな爪痕を残しました。大型のため被害は全道に及び余市町や七飯町などのリンゴ産地では2週間続けて風の被害を受け半分以上のリンゴが売り物にならないと聞きます。他にも、ビニールハウスの被害、サケ定置網の被害、収穫前の馬鈴薯やビート、乾燥中の玉ねぎなどの一次産業被害をはじめ、河川決壊や恐れがある事から多くの皆さんが避難を余儀なくされ浸水被害も多発しました。オホーツク海沿岸では本町の沙留地域ぐらいまだが降水量が多く紋別市では211.5mmと大雨で、渚滑川もあわやと言う状況であったと聞きます。幸い、本町では町道で軽度の法面崩壊などはありますが直接住民生活への大きな影響は発生しない模様でしたので、災害対策本部を立ち上げずに様子を見ました。夜9時までは、全職員で見回りや被害の有った箇所への対応などを行いました。その後は、災害担当職員が徹夜で9日朝まで排水ポンプの点検などを行い、翌日9日午前中には被害の実態調査を行いました。住民の避難は今回河川の氾濫は無いと推測できましたので行いませんでしたが、一人暮らしなどで不安な人は役場に連絡して頂ければ公民館などに避難出来る様、自治会長を通じて連絡させて頂きました。実際には住吉地区で自治会長のご判断により2戸の高齢者世帯が住吉寿の家に避難され一夜を過ごしましたが、住宅への浸水などはありませんでした。ただ、時化が治まり海では設置してありましたサケ定置網で、特に興部漁港側を中心に20カ所中6カ所で網が流されるなど今シーズンは漁が出来ない状況にあります。昨年12月の低気圧被害を受けたホタテについては未だ調査していませんが被害の無い事を祈るばかりです。この様に、2週間に亘り低気圧の災害が続きましたが、恐らく小さな被害は数多くあったと思います。被害の受けた皆様、そして平成10年の風水害被害を思い出して心細い夜を過ごした皆様に心からお見舞いを申し上げます。

「災害」があるといつも1次産業である農業や水産業、林業に被害が集中します。先日懸案であったTPPが大筋合意しました。しかし、これは決定ではありません。これからアメリカをはじめ参加国の国会での議決が必要となり、それを経て初めて合意なのですが、果たしてこのTPPは台風となるのか？ 爆弾低気圧となるのか？ 正直その影響度合いが分かりません。ただ、自然を相手の産業、特に食糧生産に関する産業は人間の思うようにならないことだけははっきりしています。多くの日本人が好んで食べる蕎麦は8割が輸入に頼っており北海道産は僅か1割にしかありません。北海道名物ジンギスカンの自給率はなんと0.5%です。TPPに賛成・反対を議論するのは結構ですが、そもそも自給率40%、それも平均年齢65歳の農家がやっとの思いで生産している現実を脇においての議論には意味がないと思います。日本の国は石油の次に食糧と言うエネルギー源を今以上に他国に握られてしまうかもしれないのです。

さて、雪の便りが聞こえてきました。風邪など召しませぬ様に、では、また。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など(使い古しのもので構いません)に入れ、封をして、町役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務厚生係まで。TEL 82・2131です。